

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070300569
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	桐生ケアセンターグループホームそよ風
所在地	群馬県桐生市相生町1丁目字横町160-1 (電話) 0277-70-6821

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年9月26日

## 【情報提供票より】(19年 8月 25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 12.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての,	2階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費	運営管理費
敷金	50,000			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1400 円				

### (4) 利用者の概要(8月 25日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	74歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	赤南診療所	しもやま歯科	東邦病院	桐生厚生病院
---------	-------	--------	------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が今まで住んでいた家のような日常生活が送れるように、また行動範囲を広げ閉じこもりのない生活が送れるように日常的な外出支援や楽しみごとの支援を行っている。事務室と居間兼食堂を挟み2ユニットが自由に通行出来るよう居室が配置され、ユニット間での日頃の交流のほか、合同の毎日のレクリエーションや毎月の2~4種類の行事で交流を図っている。また、1階のデイサービス利用者と合同で慰問の見物や音楽療法に参加し、少しでも行動範囲や交友関係が広がるように支援している。職員は、家族との面会時や電話で日々の生活の様子を報告し、意見・要望をお聞きし、少しでも多くケアに取り入れるよう努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の金銭管理の能力にあった場面作りを検討することの課題提起がされ、現在は金銭管理可能な利用者は財布を所持し、日用品の買い物を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員会議に諮り、ヒヤリハットの記載方法、利用者のストレスの解消方法等について意見交換し改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では事業所の活動内容と状況の報告、意見交換を行っている。家族代表からは利用料金の変更を事前に知らせること、運営推進会議の開催日を早めに通知することの要望があり、今後は要望に添って対応することとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	写真を取り入れた「グループホームそよ風だより」を毎月発行し、日常生活や行事開催状況等を家族に報告している。また、意見箱を設置しているほか、面会時には何でも話して頂けるような雰囲気作りを努め、家族の質問には丁寧に答え、要望に沿った対応を行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	八木節やマジック等のボランティアの受け入れ、桐生祭りや近隣の保育園行事への見物などを行い、地域の交流に努めている。今後は、自治会や老人会が開催する行事等に参加し、地元の人々との交流が図られるよう期待する。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営するそよ風の「そよ風憲章」で、基本理念が制定されているほかに、桐生ケアセンターグループホームそよ風の独自の基本理念を制定している。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用職員には、「そよ風憲章」及び「桐生ケアセンターグループホームそよ風基本理念」を配布し説明している。また、毎月第1水曜日に開催される職員会議では、「そよ風憲章」及び「そよ風基本理念」を唱和し、利用者がホームを自宅と思ひ、明るく元気ですこやかに、楽しく日常生活が送れるように日々のケアに励んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	八木節やマジックなどのボランティアの訪問がある。桐生祭りや保育園の行事の見物に行っているが、自治会や老人会が開催する地域活動に参加していない。	<input type="checkbox"/>	自治会や老人会が開催する行事等に参加するなど、日頃から地元の人々との交流を図り、地域に受け入れられるホームとなるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議に諮り、グループホームのPR方法、利用者のストレス解消方法、ヒヤリハットの記載方法等について意見交換し、改善に取り組んでいる。外部評価は職員会議及び運営推進会議で報告し、金銭管理の可能な利用者は財布を所持し、歯磨きや化粧品等の日用品の買い物を行うよう改善した。	<input checked="" type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市役所担当者、家族代表、民生委員、消防団長、職員代表で構成され、活動内容や状況報告を行っている。年3回開催し、1回は家族代表が参加し易いよう「そよ風祭り」に併せ開催したが、家族代表や地域の人達の都合が合わず構成員の参加は難しい状況にある。会議では、家族代表からは利用料金の変更を事前に知らせること、開催予定日を早めに通知して欲しいとの要望があり、要望に添って対応していくよう努めている。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症予防施設としての在り方、運営推進会議の開催、介護計画書作成で不明な点や判断しかねる点等について、センター長が市の担当者に随時相談しケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○評価の意義の理解と活用 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	写真を取り入れた「グループホームそよ風だより」を毎月発行し、家族に報告している。また日常生活の様子や健康面での変化等は、家族の面会時や電話で報告している。預り金で購入したオムツ、ティッシュペーパー、歯磨き粉等は、毎月の利用料金請求時に預り金収支報告書にレシートを添付し家族に報告している。		
8	15	○運営推進会議を活かした取り組み ○運営に関する家族等意見への配慮 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映している。	意見箱を設置しているほか、面会時に何でも話して頂けるような雰囲気作りに努めている。家族からは観葉植物を多く配置して欲しい、世情を反映し職員の採用は円滑か、職員数は充足しているのか等の要望や質問があり、要望に添って対応し質問には丁寧に説明している。		
9	18	○市町村との連携 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	極力異動は控えている。ユニット間の異動はあるが、2つのユニットが同一階に在り、浴室やトイレの共同利用をしていることや、レクレーションや行事を合同で行う等、日頃から頻繁に交流を図り異動があっても影響がないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、段階に応じて基礎課程と専門課程を受講している。管理者は、本社が行う管理者研修を受講している。受講後は研修報告書を作成し閲覧して、職員会議で発表している。日頃のケアのなかで、薬・食材・レクレーション・環境整備等の業務担当を設け、各々の担当は職場内のリーダーとして他の職員を指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入し、ケアマネージャー研修やストレス解消について等の研修を受講し、情報交換に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者と一緒にレクリエーションに参加していただいたり、お茶を飲んだりして、ホームの雰囲気を感じて頂いている。また本人や家族等の話を聞き、十分な説明と対応を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦中戦後の出来事を話す利用者からはその時代を学び、昔使われた言葉や慣わし、洗濯物を干す時のシワの伸ばし方等の生活の知恵を教わるなど、暮らしの中で利用者の知恵を伝え聞いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の困難な利用者は、家族等から情報を得るようにしている。意思表示が十分にできない利用者は、日々の生活の中での観察や会話を大切にし、その中で何を求めているのかを考えながら、本人の満足が得られるケアが出来るよう心懸けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居希望者には定められた様式に基づく事前の実態調査を行っている。介護計画は、利用者本人や家族・医師の意見・要望を聞き、毎月開催される職員会議で意見交換をし、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行っているが、変化があれば随時見直しを行っている。特に意思疎通が十分でない利用者には、日々の生活の中の会話を大切にし、その中で何を求めているのかを観察し、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の実態調査でかかりつけの病院や理美容院を聞き取り、家族が付き添えない場合は職員が送迎を行い付き添う支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前の実態調査で希望を確認している。通院に家族の付き添いが無理な場合は、職員が送迎している。協力病院は、週1回の往診と春秋年2回の定期健康診断(血液検査、尿、心電図)を実施し、その結果は書面や口頭で家族に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療処置が継続的に必要になった場合は、病院へ移って頂くことを契約時に家族に説明している。医療が必要でない方は、利用者や家族等と相談しながら、医師の意見を聞きデイサービスの看護婦の協力を得ながら対応をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、決まった場所に保管し持ち出し禁止としている。不要な個人情報の書類は、シュレッダーにかけ廃棄している。「グループホームそよ風だより」に掲載する写真は、利用者や家族の了解が得られた方のみ掲載している。トイレ誘導や失禁の言葉かけは、目立たないよう対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の利用者に迷惑をかけない限り、本人の意思を尊重し、近隣の散歩や渡良瀬河畔まで出かけた時、タンポポの花見等、自由に過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が作成しているが、利用者の状態に合わせて、おかゆや刻み食・ペースト食を用意している。昼食の野菜を2種類用意して本人の希望により選択して食べられる工夫をしたり、手作りおやつの日や流しそうめん、ラーメン屋台等季節に合わせた食事を提供し、楽しく食事出来るよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットが交互に入浴日を設定して、毎日(月曜から土曜日)どちらかの風呂で入浴することが出来る。入浴剤を使用し色や香りを変えたり、利用者の希望で毎日入る人や午前中にひとりで入る人もいる等楽しく入浴が出来るよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が、草むしり、草花の水やり、ベランダの掃除、洗濯物たたみ、お茶入れ等自主的に役割を担っている。また、誕生会やクリスマス会等の年中行事の他、ベランダでの野菜作りを楽しんでいる。収穫したミニトマト、ナス、しそ、キュウリ等を日々の食事に提供し、食事を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に天気の良い日は、散歩や日光浴に戸外に出ている。月毎に行事計画を立て、利用者の希望を取り入れながら、100円ショップの買い物やレストランや回転寿司の外食ツアー、花見や渡良瀬渓谷鉄道行楽ツアー等楽しく過ごせるよう支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は、鍵を掛ける弊害を理解し、玄関、階段、エレベーターの鍵は掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は消防署の立ち会いの下に消火器の使い方の指導を受けているが、地域の人々の協力が得られるような働きかけはしていない。	○	災害時はもとより、日頃から地域の人々の協力が得られるよう働きかけることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録簿に、主食と副食の摂取状況や水分摂取状況を記録して確認している。水分は、1日1200cc～1500ccを目安としている。業務日誌には、健康状態を記録し申し送りをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や居間兼食堂は、障子やカーテンを使用し光の調整が行われている。居間兼食堂や廊下は、観葉植物が配置されたり、季節の貼り絵の作品が飾られて、季節感を感じるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃使用していたベッド、タンス、椅子、仏壇等が持ち込まれ、好きな人形や花、家族や孫の写真が飾られるなど居心地良く過ごせるよう配慮されている。		